

# 荒川区町会実務担当者研修会 「公式LINE活用情報交換会」



荒川区町会連合会（事務局：荒川区区民生活部地域つなぐ課）は、「持続可能な町会運営の実現」を目指して、町会・自治会のデジタル化を進めており、令和8年2月28日に公式LINE活用情報交換会を開催しました。当日は19町会、36名が参加し、大盛況となりました。

## 司会者挨拶

### 東京ケーブルネットワークが会を進行

荒川区・文京区・千代田区のケーブルテレビ事業者であるTCNは、2015年より町会活動を支援する冊子『町会見聞録』を発行、近年は自治体と連携してデジタルを活用した課題解決に取り組んでおり、研修会のファシリテーションを務めました。



<東京ケーブルネットワーク（TCN）による会の進行>

## 主催者挨拶



<荒川区町会連合会事務局、荒川区区民生活部地域つなぐ課岸課長（当時）より挨拶>

### 「持続可能な町会運営の実現」に向けた研修会

全国的に町会の担い手不足や高齢化が課題となっている中で、荒川区町会連合会では、平成24年度から「持続可能な町会運営の実現」を目標に、町会の次世代を担う実務担当者を一堂に集めた研修会を重ね、今回が14回目になります。

町会のデジタル化推進のため、現在、町会の公式LINE導入に注力しており、各町会内でコンテンツを充実させることで、町会加入者の促進や新たな担い手の獲得につながればと思っています。町会のデジタル化は「進んでいる町会」と「まったく進んでいない町会」の二極化してきました。ですが、決して無理強いする形ではなく、できる町会から始めて、そのうち隣の町会を見て「デジタル化が進んでいるあの町会、こんなに発展したのか、じゃあ我々もやらなければ」と広がっていくことで、持続可能な町会運営が実現すると考えています。

荒川区町会連合会は、担い手不足解消に向けたデジタル化として、「町会公式LINEの導入」を推進しています。現状は、進んでいる町会と未着手の町会に二極化していますが、無理強いせず、成功事例が隣の町会へと自然に伝播していく「波及効果」による拡大を目指しています。

# 公式LINE活用事例

## CanvaとAIを活用してスムーズな情報発信を実現 (ひぐらし文化会)

公式LINE運用を始めてまだ1年程で、昨年こちらの研修会に参加して高度な運用をされている方の事例をお聞きして、まずはできるところからやっというところと昨年4月から自治会費を集めるタイミングでお友達募集をして、現在のお友達登録者は約130名です。



<ひぐらし文化会の水津様>



配信している内容は、紙の回覧板と同じ内容や区のお知らせを配信したり、イベント終了後には楽しそうな写真を載せて「ご協力ありがとうございました」とお礼と報告をしたり、自治会員の活動報告も掲載しています。夏のお祭りの時には、役員以外の方にも隙間時間でお手伝いしていただけないか、ボランティア募集も行いました。ボランティアの反応は期待ほどではありませんでしたが、お祭りの露店の案内を当日LINEで告知したところ、短時間で完売し、確かな集客効果を感じました。来年度は、防災イベントなどにもLINEを活用して参加を促し、世帯間の交流をさらに増やしたいと思っています。

リッチメニューのデザインやお祭りのチラシなどは、無料のデザインツール「Canva」を使って私が制作しています。テンプレートに沿って文字を入れていだけで整ったチラシが出来上がるので、仕事でもプライベートでもCanvaを愛用しています。

LINEのメッセージ作成では、丁寧さと親しみやすさのバランスに悩む時はAIのChatGPTやGeminiを使って表現を整えています。CanvaとAIを活用することでアウトプットはストレスなく出来ています。配信作業は私が担当していますが、運用は4名のチームで行っています。掲載するネタの提案や、資料集め、文章の相談など、配信前に協力してもらえるので、逆に分担するよりもスムーズにやれているのではと思っています。



**LINE運用開始から約1年で、登録者は約130名に。配信内容は回覧板情報のほか、行事報告やボランティア募集などで、お祭りの露店告知では短時間で完売し、集客効果を上げています。制作には無料ツール「Canva」やAI（ChatGPT、Gemini）を活用し、4名のチーム体制で役割を分担しながら、スムーズな情報発信を進めています。**

## 月一回以上のLINE配信により町会DXを実現

(南千住六丁目日本町会)



<南千住六丁目日本町会の尾林様>

私たちは、LINEは「入口」、ホームページは「情報の倉庫」と考えています。ホームページに年間行事や祭りの情報、ごみ出し、防災、防犯などを整理して掲載し、月1回以上はLINE配信することで、住民がホームページにアクセスして自分で情報を取りに行くよう促しています。ただ、私たちもまだ始めて1年も経っていないので、効果はこれからに期待しています。LINEのおかげで夏のラジオ体操の参加率が向上しましたし、お祭りの時にはホームページに神輿巡行ルートを地図で載せ、当日LINEで「今日はここを回りますよ」と配信したところ、住民からご好評をいただきました。



ホームページの更新やLINEの配信内容やタイミングを一人で悩まないように、チームで取り組み、分担しながらやっています。あとは、「まねる」は「まなぶ」ということで、他町会や他業種のホームページやLINEを参考にし、ITスキルを向上していきたいと思っています。

**4名体制の「デジタル推進室」を新設し、デジタルを活用した情報発信や運営の効率化・省力化に取り組む町会DXを目指しつつ、アナログの回覧板も併用で運用しています。LINEの活用でラジオ体操の参加率が向上、お祭りでは神輿の現在地をリアルタイム配信し好評を得ました。チーム全体で、他団体の事例を「まねるは学ぶ」でスキルアップを図っています。**

# グループワーク

事例発表後は、50分間のグループワークを行い、各町会の導入状況や活用方法、お悩みなどを情報共有しました。



グループワーク後は、情報交換した内容の発表があり、すでに導入済みの町会と、これから導入を検討する町会の双方から、多くの実践的な意見が共有されたので、まとめて報告します。

## ●公式LINE導入の現状について



多くの町会がすでに公式LINEを導入しており、「情報伝達の効率化や若手の参加促進に効果を実感しています」と語っていました。導入検討中の町会の中には、「若手の加入促進や情報伝達の改善になれば」と今回の研修を機に導入を決定した町会もありました。「まずはやってみようか」という前向きな姿勢が広がっていました。また、LINEは高齢者も含めすでに幅広い世代が使っているアプリであるため、操作方法を覚える必要がない点も評価されていました。

## ●活用方法とその効果について



イベントの案内、回覧板の代替、会議資料の事前共有などに活用している町会が多かったです。「会議時間が2時間から1時間に短縮されました」「写真や動画を使って告知することで楽しそうな雰囲気が伝わり、イベント参加者が増えた」「祭礼でクーポンを配布して参加者増加につながった」など具体的な事例も報告され、LINEを活用することで、これまで情報が届きにくかった層にも情報が届くようになったという声もありました。

また、ユニークな活用方法として、LINEで「町会費回収のお知らせ」を送り、町会費を住民に持参してもらう方式に変更したという町会があり、役員の負担軽減になっているとのこと、会場内に驚きの声が上がっていました。

## ●運用体制における課題



運用の体制については、担当者数名で行う少人数派と、4名以上のチームで行う大人数派がありました。少人数で運営した場合、「意思決定が早い」「管理がしやすい」というメリットがあり、デメリットは「属人化しやすいため、担当者が倒れると止まってしまう」とのことでした。大人数で運営した場合は、担当者の代替が効くメリットがある一方、「情報共有が難しい」「世代間で認識差が出る」などのデメリットが挙げられました。

その他、担当者が単独で業務を担っているケースも複数報告され、「役員全体のデジタル教育が必要」という意見が多かったです。

## ●配信内容に関する悩み



公式LINEを始めてみたものの「毎月、何を配信すればいいのかわからない」という声が複数の町会からありました。今回、紙の回覧板をLINEでも配信し、お祭りやイベントのお手伝い募集、天候による開催中止・順延などに活用しているという他町会の事例も多数報告されたため、「まずは真似してやってみて、改善しながら慣れていくしかないですよ」と前向きな共通認識が生まれていました。

## 町会のデジタル化に役立つセミナーを実施予定

「町会の公式LINEを新たに始めてみたい」といった町会から「アカウントは作ったけれどまだまだ使いこなせていない」といった町会まで、荒川区町会連合会では、各町会の進み具合に合わせたセミナーを今後も実施予定です。こんなセミナーをやってほしい、などありましたらお気軽に荒川区町会連合会事務局までお問合せください。

### 【お問い合わせ先】

荒川区町会連合会事務局

住所：荒川区荒川2-2-3 荒川区役所3階地域つなぐ課内

電話：03-3802-3111（内線2513）